

# 令和7年度 学校経営報告

八王子市立緑が丘小学校  
校長 坪内 聡

## 1、今年度の取組と自己評価

本校では、学校の組織力を生かし、全教職員の共通理解のもと、児童一人一人のよさや可能性を生かした、個に応じた教育の充実に取り組んできた。

また、校内研究をはじめ、OJT、年次研修、各種研究会・研修会等を計画的に活用し、教職員の授業力向上と授業改善を進めてきた。これらの取組を通して、児童の実態に応じた指導や支援の工夫が図られ、個別最適な学びの実現に向けた教育実践を推進することができた。

生活指導の面では、いじめの早期発見・早期対応を基本とし、保護者や地域との連携を大切にしながら、児童が安心して学校生活を送ることができる環境づくりに努めてきた。今後も、信頼される学校づくりを目指し、組織的かつ継続的な取組を進めていく。

### (1) 教育活動等の取組と自己評価

#### ① 学習指導について

- ・ 毎時間の授業で学習課題を明確にし、児童が、分かる・できる喜びを感じることができる授業づくりを進めるとともに、学習意欲を高め、学習習慣の定着を図った。
- ・ キャリア教育につながる体験的な学習活動を充実させた。
  - ◆ 3年生では蚕を育て繭から糸を取ることを通して、八王子の絹産業の関心を高めた。
  - ◆ 4年生では、湯殿川のガサガサ体験を活用して環境教育を深めた。
  - ◆ 5年生では、1人1バケツのバケツ稲作体験を実施し、米作りの大変さと収穫の喜びを味わわせた。
  - ◆ 4～6年生では、認知症キッズサポーターフォローアップ講座上で、認知症当事者とかかわりや諸活動を通して、認知症について理解を深めることができた。
- ・ 朝の学習時間「緑が丘タイム」を活用し、国語の学習に焦点を当て、漢字学習や読解力の向上を図った。
- ・ 10月と2月に読書週間を設定。学校図書館司書とも連携しながら、読書活動を推進した。学年ごとに、児童に読書の目的意識を持たせ、読書量を増やし、読解力の向上を目指した。学校図書館司書を中心に、図書室の整備と読書環境の充実を図った。
- ・ 3～6年生にプログラミング的思考を培うために、総合的な学習のカリキュラムにプログラミング活動を設定し、実施した。

#### 【自己評価】

- ・ 各学年において児童が安心して学びに向かい、「分かる」「できる」を実感できる授業づくりを進め、基礎的・基本的な学習内容の定着に取り組んできた。保護者アンケートにおいては、「落ち着いて学習に取り組んでいる」という項目において8割を超える肯定的な評価

を得ており、学習環境の安定について一定の成果が見られる。一方で、児童一人一人の学力の定着状況には課題も残されていることから、学習指導の在り方については引き続き改善を図る必要があると捉えている。令和8年度においても、1人1台の学習用端末の効果的な活用や基礎・基本の再徹底を進めるとともに、学校の取組について保護者への情報発信と啓発を行い、家庭学習の定着に向けて一層の協力を求めていく。

- ・ 算数科においては、3年生以上での習熟度別少人数指導による基礎・基本の学力向上を目標としてきたが、校内体制の都合により、本年度も実施には至らなかった。そのような状況の中でも、各学級において問題解決的な学習や話し合い活動を工夫し、各教科の学習を通して「考える力」の育成に継続して取り組んできた。
- ・ 校内研究では、「“その子らしさ”を支える教師力の育成～実態に応じた支援と学びの連続性を目指して～」を研究主題として実践を重ねてきた。児童理解を深め、多角的な視点を学ぶことで、児童を取り巻く環境や行動の背景に目を向け、児童の立場に立った適切な支援や働きかけが行えるようになってきている。
- ・ 梶田中学校校区として、9年間を見通した小中一貫教育の推進に向け、教員間での協議を行った。今年度は新たに梶田中学校も参加し、横山第一小学校、梶田小学校、本校の3校の5年生と中学生による交流音楽会（動画配信）を実施した。音楽活動を通して、児童・生徒相互の交流を図る機会となった。
- ・ 外国語及び外国語活動においては、3年生から6年生までの4年間を見通した系統的な指導を行うため、教科担任制を実施している。中学校英語への円滑な接続を意識し、「書く活動」も計画的に取り入れてきた。あわせて、1・2年生では図書時間を活用し、英語の読み聞かせを適宜行うことで、英語に親しむ素地づくりを行っている。

## ② 生活指導・特別支援教育について

- ・ 生活指導部や学年会の充実等により全教職員で全校児童を育てる気運を醸成し、児童の人権意識や規範意識、いじめをしない思いやりの心を育てた。
- ・ ふれあい月間時に年3回児童に振り返りアンケートを実施し、いじめや問題行動の早期発見・早期対応に務めた。毎週月曜日には、いじめ対応の時間を設け、いじめ対策委員会を実施した。いじめに関して組織で解決していくことを機能させてきた。学期に1回ずつ、「いじめ防止集会」を実施し、校長講話・いじめに関する高学年の標語発表・思いやり等に関する道徳授業を連動させ、いじめ防止に努めた。
- ・ 毎週木曜日の生活指導夕会や、学期毎の「生活指導全体会」で児童の情報交換を密にし、課題のある児童、特別な支援を要とする児童の共通理解のもと、児童の対応、育成について、保護者の意識の啓発の在り方について共通理解を図った。
- ・ スクールカウンセラーとの連携の充実を図った。5年生で、スクールカウンセラーとの全員面接を実施した。また、適宜、スクールカウンセラーが、児童や保護者と現段階の課題や今後の方針に向けて面談を行ってきた。
- ・ 道徳授業地区公開講座では、座談会形式で公開講座を行った。保護者の考えや意見等を聞

き、今後の教育活動へ生かしていきたい。

- ・ たてわり班活動等を活用し、同学年はもとより、異学年児童とも思いやりをもって接する雰囲気を作り、人権尊重の意識を育てるとともに、同じ学校の児童であるという仲間意識の醸成に努めた。

## 【自己評価】

- ・ 全教職員の共通理解のもと、「褒めて伸ばす教育」を大切にした指導を進めてきた。日常的な励ましや適切な声掛けを意識的に行うことで、児童の思いやりの心や相手を尊重する態度を育むことができた。
- ・ 児童アンケート等を活用し、いじめや問題行動の早期発見に努め、事案が見られた際には早期対応を心がけてきた。学級内においては、よりよい人間関係づくりを基盤に、いじめを許さない雰囲気の醸成や、誰もが大切にされる学級づくりを進めているが、引き続き丁寧な指導と見守りが必要であると捉えている。
- ・ いじめ防止集会を各学期に1回、年3回実施し、児童のいじめを許さない意識の育成を図ってきた。問題行動への対応については、学年内で複数の教員が関わる体制を基本とし、組織的かつ迅速な対応を行うよう努めた。
- ・ 「いじめへの対応」に関する保護者アンケートでは、9割以上の肯定的な評価を得ている。一方で、いじめはいつでも起こり得るという認識のもと、気を緩めることなく生活指導の取組をさらに充実させ、児童が安心して学校生活を送ることができる環境づくりに努めていく。いじめを認知した場合には、速やかにいじめ対策委員会を立ち上げ、対応を協議の上、即時対応を行ってきた。いじめが解消されるまで、全教職員で継続的に見守りと指導を行っており、今後も同様の姿勢で取り組んでいく。
- ・ たてわり班活動では、高学年の児童にリーダーシップを育成するとともに、低・中学年の児童には集団への所属意識を育むことができた。たてわり遊びを通して児童相互の仲間意識が高まり、休み時間に自然に関わり合う姿も見られるようになった。今年度は、校歌にも歌われている、本校統合前の稲荷山小学校の校舎を活用し、たてわり班活動を実施した。
- ・ 特別な支援を必要とする児童およびその保護者に対しては、丁寧な対応を心がけてきた。副校長、特別支援教育コーディネーター、特別支援委員会、スクールカウンセラーが保護者の相談窓口として機能し、担任とも連携しながら組織的に対応を行った。拠点校の教員との連携を深め、丁寧な指導を継続することで、児童の情緒の安定につながり、保護者からも一定の理解と評価を得ている。
- ・ スクールカウンセラーによる面接は、児童との信頼関係を築き、児童の悩みや不安の軽減に効果を上げている。面接回数の増加により、安心・安全な学校生活の支えとなった。また、保護者へのカウンセリングも丁寧に行われ、保護者の不安や迷いの解消に寄与している。今後は、見通しや今後の方向性についても、保護者とスクールカウンセラーが共有・協議できる体制を整えていく。
- ・ 不登校児童や不登校傾向のある児童については、登校支援コーディネーターを中心に支援

を行ってきた。別室登校等を活用し、短時間であっても学校で過ごす機会を確保している。今後も長期的な視点に立ち、関係機関や保護者と連携しながら、丁寧な支援を継続していく。

- ・ 児童の規範意識については全体として向上が見られるものの、一部の児童においては課題が残っている。学習規律についても同様の傾向が見られることから、今後も継続的かつ粘り強い指導を行っていく。今年度も中・高学年児童によるあいさつ運動を各学期1回実施し、あいさつに対する意識の向上が見られた。また、柵田中学校区4校による生活指導連絡会を通して、共通理解を図るとともに、今後の傾向を踏まえた対応策について協議を行った。
- ・ 特別支援教室の運営においては、柵田小学校の担当教員と本校教員が、児童の実態や指導方針について十分に連携を図ることができた。柵田小学校担当教員による研修会も実施し、次年度に向けて支援体制のさらなる充実を図っていく。あわせて、保護者に対して特別支援教室に関する丁寧な説明を行い、特別支援教育についての理解と啓発を進めていく。

### ③ 体力づくり・健康づくりについて

体力テストを今年度も実施した。ミドリニックを今後も継続して取り組み、さらなる体力向上を図りたい。また、持久走、長縄などの活動も継続して行っていく。

#### 【自己評価】

- ・ 体力向上の取組として、長縄跳び・短縄跳びの実施時期を見直し、計画的に活動を行うことで、児童の敏捷性や瞬発力の向上を図ってきた。
- ・ また、児童の持久力を高めることを目的に、持久走に取り組む時間を確保し、継続的な体力づくりを進めてきた。
- ・ 日常的な運動習慣の定着を図るため、外遊びを積極的に奨励し、休み時間等を活用して児童が主体的に体を動かす機会を確保してきた。
- ・ 安全管理の面では、栄養士を交え、食物アレルギー対応に関する研修を実施するとともに、教職員間での共通理解を図った。4月にはエピペン使用に関する研修会を行い、緊急時対応について確認を行った。その結果、本年度はアレルギーに関する事故やヒヤリ・ハット事例は発生していない。

### ④ 家庭や地域との連携について

- ・ 地域運営学校として、委員の意見も取り入れながら連携して教育活動を充実させてきた。
- ・ 学校からの各種便り、学校ホームページや各家庭に Home&School 等を活用して、学校の情報を積極的に発信し、開かれた学校づくりに務めた。

#### 【自己評価】

- ・ 学校運営協議会の月例会においては、学校の現状報告をはじめ、委員からの提言や意見交

換等を行い、協議内容の充実を図ってきた。今後も、本校の児童の健やかな成長のため、学校運営協議会との連携を大切にしながら、協働した学校運営を進めていく。

- ・ 各学級の教育活動については、学級通信を通して保護者への情報発信を行ってきた。情報発信の方法については、紙媒体に限らず、Home&Schoolを活用することで、迅速かつ効率的な情報共有に努めた。次年度においても、内容や方法の工夫を重ね、情報発信のさらなる充実を図っていく。
- ・ 今年度は、PTA および学校運営協議会と連携し、学力向上の取組の一環として漢字検定を年2回実施した。延べ約100名の児童が参加し、児童・保護者の双方から好評を得ることができた。これにより、保護者の学力向上に対する意識の高まりも見られたことから、次年度以降も継続して実施していく予定である。

#### ⑤ 教育公務員としての服務規律の確立と教員の働き方改革について

- ・ 服務事故防止研修、職員会議等の場を活用して研修を実施。教職員の服務順守の意識を高めた。
- ・ SSS（スクール・サポート・スタッフ）の効率的な活用を図った。

#### 【自己評価】

- ・ 服務事故防止を目的として、7月および12月に服務事故防止研修を実施した。あわせて、職員会議や職員夕会の機会を活用し、服務事故事例の紹介を行うなど、教職員の意識啓発に継続的に取り組んできた。今年度は、交通事故防止、個人情報の適正な取扱い、児童生徒性暴力の防止等をテーマとした研修を行い、服務事故を未然に防ぐための理解を深めた。これらの取組を通して、教職員一人一人の服務意識の向上が図られており、次年度においても引き続き、服務事故「ゼロ」を目指した取組を継続していく。
- ・ スクール・サポート・スタッフの配置により、教職員の業務負担の軽減が図られた。今後は、業務内容や活用方法を工夫し、より効果的な活用を進めていきたい。